

# センタージャーナル

■ 発行人 / 荒山 淳

■ 発行所 / 真宗大谷派名古屋教区教化センター

〒460-0016  
名古屋市中区橋二丁目8番55号  
TEL (052) 323-3686  
FAX (052) 332-0900



(写真の無断転用はご遠慮下さい。)

『曇摩伽菩薩云々』高田専修寺所蔵(縦二九・七cm×横三〇・〇cm)  
宗祖親鸞聖人が、門弟に經典を示しながら語句を説明する際、書写された書付ではないかと言いつい伝えられている。

立つ!  
いのちの大地に  
聞く!  
いのちの叫びを  
真実の学びから、  
今を生きる「人間」としての  
責任を明らかにし、  
ともにその使命を生きる者となる。

## もくじ

- ・ 聖典研修 第5・6回 『仏説阿弥陀経』 — その教義と真宗の儀式 — **②・③**
- ・ 研究生実習 門徒とともに学ぶ研究生の取り組み **④・⑤**
- ・ 大谷派の近現代史 「宗教と平和-真宗とイスラームの対話」 **⑥・⑦**
- ・ INFORMATION **⑧**

◆ イラストカット集(※寺報などにご利用ください)

## 无 諍 念 王

親鸞聖人独特の伸びやかな筆致で墨書された『曇摩伽菩薩云々』という文章が、専修寺(高田派本山・津市)に所蔵されている。曇摩伽菩薩とは阿弥陀仏の因位である「法蔵菩薩」のことである。菩薩として修行に入られる前に一国の王であった曇摩訶菩薩を、宗祖は「娑婆世界王无諍念王」と記され、「出家して後、法蔵比丘と名づく法蔵比丘とも申す」と伝えてくださっている。

宗祖の本師である法然上人も「无諍念王」の名を、

阿彌陀如來の因位の時、无諍念王とまふし、よに、菩提心をおこして生死を過度せしめむとちかひたまひしに、(中略)无諍念王菩提心をおこし攝取衆生の願をたて、われ佛になれらむとき、(後略) 『三部經大意・觀經』(聖全四 七九四頁)

と、記されている。その背景には上人九歳のとき、父・漆間時国が夜襲され不意討ちに倒れたことが影響してのことだろう。息絶えだえの中「恨みをはらすのに恨みをもつてするならば、人の世に恨みのなくなることはない。恨みを超えた心を持って、すべての人が救われる仏の道

を求めよ」との父の遺言を享受した上人は、「無諍」を生きようとされたのではなからうか。無諍とはまさに、諍いの無い世界を念じ生きることである。

政府与党は「積極的平和主義」を掲げ、すでに閣議決定された集団的自衛権の行使容認を柱とする「安全保障関連法案」を国会に提出した。「自国防衛」を名目とし、地球の裏側まで自衛隊の行動範囲を拡大させ、積極的に「平和」を求めると説明している。しかし武力を用いる争いごとに積極的に関わるのが、無諍の世界を成就するとは思えない。敗戦から七〇年の時が経過し、当派が犯した過去の罪業の検証を通して、あらためて我が身の姿勢を問わなければならない。

无諍念王は、生死を過度するため国の財位を棄て、諍いを生きる人々を一人も漏らすことなく攝取しなければ、仏とは成らぬと誓われた。翻って、無諍を願う十劫の間立ち続け喚び続けておられる姿に向かうとき、懈怠な私の姿が浮かび上がる。十劫もの以前から道は開かれていたというのに、この国・私はどこに向おうとしているのだろうか。

(主幹 荒山 淳)

聖典研修

『仏説阿弥陀経』 — その教義と真宗の儀式 —

第五回 二〇一五年二月十九日 (木)

本願

講師 廣瀬 惺氏 (同朋大学特任教授)



迷い・悩みが見いだしてきた真実

先回、質問として出されました「本願」について少しお話しさせていただきましたと思います。まず念頭に出てまいりますのが、清沢満之先生の「宗教は主観的事実である(中略)実なるが故に信ずるにあらざる、信ずるが故に実なり」という言葉です。本願は、それが客観的事実だから信じるのではなく、信ぜざるを得ない問題・要求において見出される事実(真実)だということでしょう。客観的に探したり論理をもって導き出そうとしても見出せるものではない。迷い・悩みと申しますか、宗教的要求によって見出されてきた真実です。宗教的課題・要求のないところで、本願は意味をもたないのでしょうか。

その本願が、『大無量寿経』には教えとして第十八願文に説かれています。

設け我、仏を得んに、十方衆生、心を至し信樂して我が国に生まれんと欲うて、乃至十念せん。若し生まれ

ずは、正覚を取らじ。唯五逆と正法を誹謗せんをば除く。

〔聖典〕十八頁

これは、人々によっていただかれてきた本願が、教えとして説かれている表現です。ここで大切なことは、善導・法然・親鸞と受け継がれている本願は、『大経』の本願文がそのまま受け継がれているのではないということです。

善導独明仏正意

法然上人は親鸞聖人に、善導大師が表された本願の文を書き与えておられます。

若我成仏十方衆生 称我名号下至十声 若不生者不取正觉 彼仏今現在成仏 当知本誓重願不虛 衆生称念必得往生

〔教行信証〕後序・『聖典』三九九頁

これが、善導・法然・親鸞と伝承されている本願の文(本願成就も含む文)です。それに対して『大経』の第十八願文は、四十八願全体の中で、他の本願との関係に

において教えとして説かれている文なのでしよう。

善導大師が表してくださいさっています本願の文について、曾我量深先生は、「本願復元の文」、あるいは「本願還元の文」という言葉で押さえられました。それは、善導大師の文は、私たちが直接体験する本願に即した本願の表現だということです。四十八願に先立つ本願ということですが、「正信偈」に「善導独明仏正意」とありますが、それは、善導大師を通して、初めて仏の正意である本願に出遇うことができた聖人の感銘を詠っておられるのでしよう。「正信偈」には「善導独明仏正意 矜哀定散与逆悪」とありますが、「文類偈」では、その二句の間に「深藉本願興真宗」の一句を入れておられます。そのことは、「善導独明仏正意(善導独り、仏の正意を明かせり)」の内容が「深藉本願興真宗(深く本願に藉つて真宗を興す)」「聖典」四一三頁)であることを示しているといただけられます。

同体の大悲

私たちはいろいろなものを理念として立てますが、本願は理念ではない。根拠を持ち得ない私たちの根拠となつてはたらいてくださる真実でしよう。

私が馴染めないことの一つが、「阿弥陀如来の前ではみな平等」という言葉です。これは理念としての阿弥陀でしよう。仏さまが言えは間違いないのでしようが、人間の言葉として言われる場合、どこに立って言われているのかと思います。立場を持ち得ない衆生の立場となつてくださる。そして未来を開き(往生)、悔いのない生

涯を果たし遂げさせていってください(成仏)。そのような真実として、本願を教えてください。そこ立つて本願と本願が開く救いの世界を教えとして明瞭に示してください。ついでに『教行信証』なのでしよう。善導大師の本願の文で特に大事なのは「若我成仏」ではないかと思えます。これは「若不生者不取正覚」と重ねての表現でしよう。衆生の救いに自らの成仏をかけて、運命を共にしてくださいさっていることを表している表現です。『大経』の「設我得仏」ですと離れたところからの言葉のようにも聞こえますが、「若我成仏」といいますと、我らと身一つにしてはたらいてくださっている真実として本願が表されている。善導大師には「同体の大悲」というお言葉がございます(『聖典』二一七頁)。

しかし「同体の大悲」、私たちと身一つにしてはたらいてくださっている真実というものは、自分では気づけません。どこまでも私たちの目は外に向いているからです。それは、教えを縁としてしか気づけない。共にあるものというのには、教えられなければ、その有り難さに気づけない。私以上に私となつてくださっている方が阿弥陀です。

それは、教えを縁として、そのものが私の上に開かれてこないことには気づけないのです。私たちは何でも、どうしても自分の外に捜し求めていこうとしています。から、たとえはたらいてくださっているとしても、それを救いの真実としていただけない。そういう意味で、本願は教えを縁として我らの上に開かれてくる真実と申し上げることができると思っています。

第六回 二〇一五年四月十六日(木)  
無問自説の経

講師 廣瀬 惺氏 (同朋大学特任教授)



サンガの中でいただく経典

『阿弥陀経』に学んでいくにあたり、最初に注意されることが「三蔵法師鳩摩羅什」という翻訳者名です。経典を訳された方を「三蔵法師」といいますが、このことは大切なことだと思えます。「三蔵」とは、経・律・論であり、「律」とは、サンガの規律です。そうしますと、この三蔵法師とは、サンガを生きた方であることを表わしていると思えます。さらに、仏教はサンガを場として学ばれてきたものであることを示していると思えます。個人で本を読んで学ばれてきたものではないということでは、

教団、聞法会の中で学ばれ、そのことにおいて法に出会い、道を見いだし続けてきた人々の歩みが仏教であるということとです。そのことを三蔵法師という名からいただくわけです。ですから、サンガを背景にしないと『阿弥陀経』をいただくことはできないのではないかと思います。その一つの事柄として、経典では、象徴的な表現で意味が表わされています。象徴的な表現、詩的な表現と言ってもいいかもしれませんが、それが圧倒的でしょう。例えば、『阿弥陀経』に浄土の莊嚴とし

て、「宝の池」や「宝の樹」などが出てきますが、その言葉だけで、そこに表現されていることの意味がただできるかといえますと、それは稀有なことではないでしょう。その表現を通していただかれ続けてきたサンガの伝統をくぐらないと、その言葉の意味が受け止められません。教団不要論が叫ばれた時代がありました。その頃、私の友人がある方に聞いたそうです。「なぜ、教団に入られたのですか」と。するとその方は「私は、一人で求めていくことに挫折したのだ」と答えられたということを聞いたことがあります。そのことが非常に印象に残っています。

「序分」の重み

いよいよ序分に入ります。経典は、三つの部分(序分・正宗分・流通分)で構成されています。「正宗分」は、その経典の中心となる部分と言ってもいいかもしれません。宗(中心となること)が説かれている部分です。宗とは「要」ということです。そして「流通分」は、その経典に説かれている法が未来永劫にまで相續されていくことへの願いが説かれている部分です。法との出遇いの喜びの中に相續への願いが説かれています。

そして「序分」ですが、序分と言いますと私たちは軽く受け取りがちです。しかし、そういうことはありません。それぞれが明らかにすべき「分」を持っているということです。ですから、「序分」であり、「序文」ではないのです。序分であれば明らかにされ得ないものがあるということでは、

序分が正宗分を決定するのです。それくらい序分は大切なものです。『大無量寿経』の序分を『阿弥陀経』の序分に持つてくることはできません。それでは『阿弥陀経』は成り立たないのです。そういう意味で、「分」は分担の「分」なのです。学生時代に、序分・正宗分・流通分の「分」は「分限の分」であるとお聞きしたことがあります。

言葉にできない問い

序分は、普通、その経典が仏説であることを証明する「証信序」と、仏陀の教説の契機となる事柄が説かれている「発起序」との二つから成り立っています。

『大無量寿経』の発起序には阿難の回心が説かれています。そして、阿難の、自らを起したしめたもの、そしてお釈迦様の輝きは何によるのかという問いを受けて、仏陀は正宗分で弥陀の本願を説いていかれるのです。

『観無量寿経』では、発起序の、深宮に閉じ込められた韋提希夫人が未来世の衆生とともに救われていく道を教えてほしいという請いに応じて、正宗分を説いて

いわれます。

ところが、『阿弥陀経』には発起序がないのです。これが『阿弥陀経』の大きな特徴です。しかし、縁無くして説かれるということは考えにくいことです。このことについて、親鸞聖人のお言葉をおききましょう。『一念多念文意』です。

この経は「無問自説経」とも申す。この経をときたまいに、如来にといたてまつる人もなし。これすなわち、釈尊出世の本懐をあらわさんとおぼしめすゆえに、無問自説とも申すなり。

(『聖典』五四〇頁)

『阿弥陀経』が説かれないうと、釈尊の出世の本懐がいに成就しないということでしょう。親鸞聖人は、『阿弥陀経』は、問う人無くしてお説きになられた「無問自説経」であるとおっしゃっています。しかし、「無問自説経」とはどういうことでしょうか。

『阿弥陀経』では、釈尊は「舍利弗」と三十六回も呼びかけて説いていかれます。これは、舍利弗が言葉にならない問い、言葉にできない問いを抱えておられたからではないでしょうか。信仰の問いや悩み、それは、なかなか言葉として表現することができないのではないのでしょうか。しかし、舍利弗の顔の表情や姿にそのことが表わされていたのではないのでしょうか。ですから私は、「無問自説」とは、言葉にならない、言葉にできない問いに仏が応えてお説きくださったということではないかと思っています。

研究生実習

真宗門徒講座

参加者とともに学ぶ研究生の取り組み

二〇一五年三月に「真宗門徒講座 親鸞聖人―生涯と教え―」が終了し、新たに二〇一五年四月より「真宗門徒講座 書いて味わう正信偈」が始まった。  
名古屋別院主催の当講座は、教化センター研究生を中心に企画・運営を行い、講義を受けるだけという形式ではなく、各組・各寺院の同朋会などで活用できる講座にという願いのもと取り組んできた。  
その内容を紹介させていただきたい。

真宗門徒講座  
親鸞聖人 ―生涯と教え―

2014年4月～  
2015年3月 (全11回)  
日程  
14:00～ 講義 (荒山主幹)  
15:00～ 『わたしノート』  
記入・発表 (研究生)  
15:30～ まとめ講義 (荒山主幹)  
16:00 終了  
テキスト・資料  
『親鸞聖人ノート』  
(教化センター発行)  
『わたしノート』  
(研究生作成)



参加者の前で話をする研究生

企画は、講座を開催するにあたり、どのようにしたら歴史としてではなく、自分自身の人生を通して親鸞聖人の生涯を学んでいけるだろうか、研究生が中心となり進行を考えていった。  
普段、何気なく過ごし、あまり振り返ることのない自分の人生。しかし、そこには、様々な出会いや、驚き、悲しみ、喜びがあったと思う。自分の人生を見つめ直す機会にしていたきたいという趣旨から、『親鸞聖人ノート』にある聖人のご生涯の一章ごとにテーマを考え、各回担当の研究生が『わたしノート』を作成する、という事前準備を行いのだんだ。  
講座では、荒山主幹に、導入として親鸞聖人の生涯について、まとめの講義では『わたしノート』に基づきお話しいただいた。主幹が中学生の時の出来事や、亡くなられた祖父との思い出など混じえ、ご自分の人生を振り返りながら、親鸞聖人の生涯を押さえて語られた。  
一方、『わたしノート』の記入・発表の

時間では、「わたしは良い人？悪い人？」  
「傷ついた出来事は？」  
「ともとは？」  
「ふるさととは？」  
など研究生からの問いかけに對し、参加者が書き込み、研究生がインタビュしながら回答を発表していただいた。内面を尋ねる質問も多いため、発表をためらう場面も見られたが、参加者が自分の過去や、思いに向き合う普段無い機会となった。  
講座を終え、「多くの参加者の前で自分の内面を発表する形は適していたのだろうか」  
「ともに学んでいこう」とする時、場」に対する信頼が大切ではないか」という意見が出された。

今回の取り組みを通し、参加者一人一人が自分の人生を振り返る時間をもっていただけではないか。しかし、その機会と親鸞聖人の生涯を学ぶことをうまく絡ませるのは難しいと感じた。今後、講



『わたしノート』の発表をする参加者

『真宗門徒講座』宗祖親鸞聖人―生涯と教え(第10回)2015.2.13

わたしノート

善鸞義絶 ― わたしにとって親とはどんな存在？ ―

■わたし伝(親との関係について振り返ってみよう)

これまでの人生を振り返ってみて、わたし自身に対する親の言葉(行動、姿)で一番心に残っているのは、私が(32)才の頃の、  
父が胃がんになり、6時間に及ぶ手術が終わり意識が戻った一言、「来てくれてありがとう」と手を差し伸べて握手した。  
(そのときの私の状況や気持ち、親の表情や雰囲気までできる限り思い出してみよう。他の人から聞いた話でもかまいません。)

という言葉(行動、姿)である。

そのときのことを振り返ってみると、当時、わたしは、  
父も歳をとったんだな  
という気持ちになった。

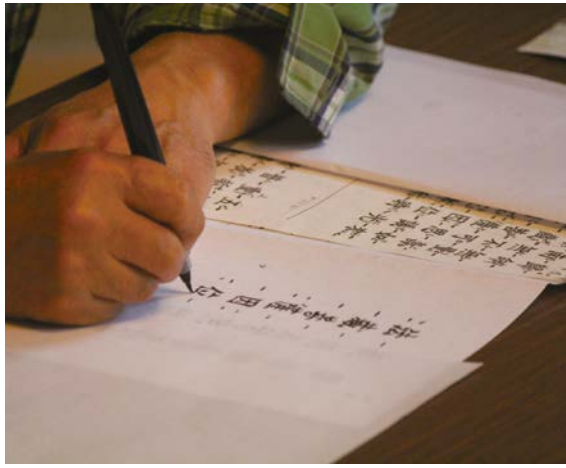
今になって、もう一度その言葉(行動、姿)を受け止め直してみると  
私を育ててくれてありがとう  
であったと思う。

今あらためて考えてみると、わたしにとって親とは、  
強いところも、弱いところも私に見せてくれる  
という存在であった。

研究生が作成した『わたしノート』。  
毎回、親鸞聖人の生涯を学習しテーマを考えた。

座の進め方、『わたしノート』のテーマ設定など、課題は山積しているが、これからの教化活動に生かせるようなものとなるよう引き続き考えていきたい。

新しく始まった門徒講座は、名古屋教区・名古屋別院親鸞聖人七五〇回御遠忌法要を迎えるにあたり、親鸞聖人がお書きになられた「正信偈」を学び直したい、一字一字と向き合いたいという研究生の願いから、「正信偈」の書写を行い、一冊の手作りお勤め本を作るという企画となった。また、参加者同士の交流を作りたいたいという意見から班ごとに分かれての座談会を取り入れた。



2015年4月～  
2016年3月

(全11回)

日程

13:45～ お勤め  
(正信偈同朋奉讃)  
14:00～ 講義  
(荒山主幹)  
15:00～ 書写  
15:45～ 座談  
16:30 終了

御遠忌法要記念講座  
真宗門徒講座  
書いて味わう「正信偈」



「正信偈」についての講義をする荒山主幹

書写する紙は、和紙風用紙に「正信偈」の節譜のみを印刷、下に現代語訳を載せた。一回の講座で、十二行ずつ書写をしていく。文字をなぞるのではなく自分の字で書くことにした。十一回目で製本、最終的には和綴じのお勤め本が完成する予定だ。

参加者からは、「下書きがなくてびっくりした」「自分の字で書くことに抵抗を感じる」と戸惑いの声もあった。しかし、実際に書写を進めていくと、「書くことで、言葉に対して疑問が生まれた」「親から引き継いで読んでいたが、意味が知りたくなった」など、書写をすることによって感じた「正信偈」への新たな疑問や思いが語られた。

今回の「正信偈」のお勤め本を作るという講座は初めての試みであり、本の穴あけの難しさ、和綴じの難しさなど課題はあるが、一年間の中で試行錯誤し、今後、この企画が同朋会などで使用していただけるようなものになることを願っている。



「正信偈」書写の様子 会場には静かな時間が流れた

### 研究生の声

初めて「正信偈」の書写をして、一文字ずつ丁寧に書写するためには、思っていた以上に集中力が必要だと感じた。普段は何気なく文字を書いているが、意識の持ち方次第で感じ方が変わることには驚いた。

また班ごとに分かれての書写や座談会をおこなうことにより、研究生と受講者、また受講者同士の距離感が近くなるはずである。一人でも多くの人のため本講座がより有意義な時間となるように、私自身前向きに取り組んでいきたい。

新たな試みであり、問題点も出てくると思うが、ともに協力し合い乗り越えていくことによってこの講座が御遠忌につながるものになればと思う。

(研究生第十期生 玉腰暁広)

### 門徒講座にあたり

今年度の真宗門徒講座には私の所属する自坊のご門徒さんが参加してくれている。感想を聞いたところ、「正信偈の書写をすること、若いお坊さんと話し合いをすることがとても楽しみだ」「ぜひ今後お寺でもやってほしい」という言葉が返ってきた。

研究生とともに一からお勤め本を作り、内容を決めていく中で不安もあったが、参加者の声を聞き、今回の講座に対する手ごたえを感じた。

まだまだ、反省するところも多くある。随時改善し、今後の教化活動に生かせるよう、より良い講座にしていきたい。

(教化推進要員 加藤 浄恵)



座談会で参加者と話し合う研究生

大谷派の近現代史  
2015年3月20日

## 平和展学習会特別企画

## 「宗教と平和―真宗とイスラームの対話―」

講師・サラ・クレシ好美氏（名古屋モスク渉外担当理事）

コーディネーター・新野和暢研究員（名古屋教区教化センター）

教化センターでは、去る三月二十日「宗教と平和―真宗とイスラームの対話―」を開催した。名古屋モスクのサラ・クレシ好美氏をお招きし、当センターの新野和暢研究員がコーディネーターをつとめた。昨今の51に関する報道から感じた「イスラームは本当に殺人を肯定する教えを持つのか？」という疑問と、新野研究員の「私自身に引き当てると、教えを教えとして受け取れない自分が存在し、教えを違う方向に解釈する。つまり、教えを意見として捉えてしまう。イスラームに対する偏見のもとがそのような点にもあるのではないか」という問題提起にサラ氏が応える形で、イスラームの教義や、私たちが持っているイスラームに対する誤解についてお話しいただいた。なお、その後の対談については紙面の都合上割愛します。

## 講義

サラ・クレシ好美氏

## 【二つの教義】

「教えと意見」という問題提起がありましたので、まず、「教え」について説明します。複雑な教義を持っていると思われるが、イスラームの教義は二つしかありません。一つは、「LAILAHA ILLA ALLAH」という言葉を唱えることです。「アッラーの他に神はなご」、神様は一人であるという表現です。「神様」というと、山や海といった自然の神様など身近な神様をイメージされがちですが、

二人以上の証人を立て、この二つの言葉アラビア語で宣言すると、ムスリム（イスラム教徒）になることができます。キリスト教では預言者であるイエス・キリストを「神の子」として崇めています。イスラームではムハンマドを「最後の預言者」と考え、それを確認するために、あえて宣言するのです。

預言者の「預」は「預かる」という字を書きます。天気予報の「予」ではないので、未来を見るわけではなく、神の言葉を預かって人間に伝えるという役目です。

## 【戒をめぐる宗教史】

私は元々クリスチャンで、神様の勉強をする神学校に通っていました。ユダヤ教とキリスト教の話を経なければイスラームの教えに行きつかないと考えていますので、触れておきます。

ユダヤ教は、モーセが神様から十個の戒律を預かってきてユダヤ民族に渡したところから始まります。ユダヤ民族は戒を守る代わりに、神様が特別にユダヤ民族だけを大事に扱ってくれることになりました。ユダヤ教の人たちは丁寧に戒律を守りましたが、イエスの時代に至ると十個の戒律がたくさん増えて千五百にも及んだそうです。

イエスという方はユダヤ人ですから、ユダヤ教の戒を守らなければならぬにも関わらず、守りませんでした。いわゆる革命家です。彼は聖書の中で「私は新しい契約である」と宣言しています。聖書の前半は「旧約聖書」といい預言者モー

セが預かった契約が書かれていて、後半は新しい約束、契約で「新約聖書」といいます。つまり、イエス自身が新しい契約なので、もう古い千五百もの戒律はいらない。断食も止めて、豚も食べ、屠殺の方法も構わない、とユダヤ教徒が今でも守っている戒律を、キリスト教徒はイエスを信じることで救われる、と守っていません。

先程、新野さんが、「だけど」と言い訳しながら教えを自分なりに解釈することに言及されましたが、まさにイエスは、神様は慈愛に満ちた方だからそんな細かい戒律を気にしなくても良いと教えたのだと思います。そして、そのイエスが、私たち罪深い人間の代わりに死んでくださったがゆえに、全ての罪があがなわれたと考えるのがキリスト教です。

イスラームでは、戒律の厳しいユダヤ教からの反動で、柔らかい方向に行ったのがキリスト教であると見えています。仏教にも「中道」という教えがありますが、同じように極端な姿勢や偏りを持ってはいけないと考える立場がイスラームです。中道を行くため遣わされたのがムハンマドだと考えます。

## 【ムハンマドの啓示】

ムハンマドは、六一〇年ぐらいから二十年ほどの期間をかけて啓示を受けており、それをまとめたのが『クルアーン』（イスラム教の聖典、コーラン）です。その内容は場所や場面、時期によって様々で、例えば、迫害を受けていた頃や異教

「アッラー」はそうではありません。たった一人の神様を指し、キリスト教でいう神様、ユダヤ教の人たちが「ヤハウェ」と呼ぶ神様と全く同じです。「神」と翻訳せず、発音をそのままに「アッラー」と表現されています。

「たった一人」と言うとは人間のようには聞こえますが、人間とは全く違います。超越的で絶対的、私たちに想像もできない、偶像的なイメージすらできない、私たちの存在をはるかに超えた存在です。その存在を認めることが一つ目の教義です。二つ目は「MUHAMMAD RASSOOL ALLAH」と、「ムハンマド」という人はアッラーの使徒、しもべであり、神として崇めてはいけない」と宣言することです。

徒と戦っていた頃には過激なものもあり  
ます。メッカを追い出され、何年か後に  
軍隊を引き連れて戻り、メッカを取り返  
すための戦争行為もあり、平和の教えで  
はないこともたくさんありました。

『クルアーン』は一文字も足しても引い  
てもいけないという決まりがあります。絶  
対に神様の言葉を変えてはいけないので、  
「過激なものとは抜こう」などということは  
一切考えずに昔から全く同じものが今も  
続いています。ですが、神様の言葉は変  
わっていないのに、解釈がいろいろと変  
わり人間の「意見」が出てきてしまうの  
です。これが、現代に起きている様々な  
問題のもとなのだと思います。

### 【五つしかない義務】

啓示とは、アッラーの言葉ですから命  
令であり、義務です。「六信五行」とい  
言葉があり、六信は「六つの信じている  
もの」で、五行は「五つの義務」です。も  
との十個の戒律に加え宗教的な実践とし  
て五つの義務があります。

多くの人はイスラームというと、戒律  
が厳しくて大変だと思われていると思  
います。「何で五つしかないのか？」と疑問  
に思うかもしれませんが、このほかにあ  
るものは、宗教的な実践として後から付  
け足したもので、大事なものは五つで  
す。二つの宣言と五つの義務を守れば、誰  
でもムスリムです。

五行の一つ目は、信仰告白の「シャハー  
ダ」、二つの教義を確認するということ  
です。アラビア語で「LAILAHライラハAアHハAア

ILイルALLアルLAHラハ MUHAMMADムハンマド RASSOOLラッスール  
ALLAHアッラーと毎日告白します。

二つ目は礼拝の「サラート」、一日五回  
行います。大変だと思われがちですが、一  
回の礼拝は五分ぐらいで、夜明け前、お  
昼、午後、夕方、寝る前の計五回です。礼  
拝をしなければならぬ時間には幅があ  
るのでピッタリこの時刻でなければなら  
ない、ということもありません。

三つ目は「ザカート」で、喜捨という  
訳語が充てられます。よく教科書には「救  
貧税」と書いてあり、貧しい人を救う税  
金、現代でいう福祉税です。これは軍事  
費や使途不明金に一切ならない、明快で  
完全に福祉目的のものであります。これは全財  
産の二・五％を貧しい人にあげるとい  
う税金です。その人の経済状況に合った形  
での課税ですから、とても公平だと思  
います。

### 【ラマダーンは楽しい一ヶ月】

四つ目の「サウム」は、断食と翻訳が  
なされていると思いますが、「齋戒」とい  
う、仏教でも使う言葉を充てることも多  
いです。つまり飲食を止めるだけではな  
く、あらゆる欲望を絶つ一ヶ月間です。そ  
の月のことを「ラマダーン」といい、イ  
スラーム暦でいう、太陰暦の九番目の月  
の一ヶ月間を指します。一ヶ月間飲まず  
食わずでは死んでしまいますので、太陽  
が沈んでから夜明けまでの間は自由に食  
べても良いのです。何も大変ではなく、昼  
食は抜いて、夜と朝は早めに食べる程度  
ですが、この一ヶ月間は一食抜くこと

を通じて、アッラーを意識しなければいけ  
ません。食べないことは大変だと思われ  
るかもしれませんが、名古屋モスクでは  
多国籍の方々が集まり、日が沈んでから  
はホームパーティーのように日替わりで  
いろいろな国の料理が出てきます。です  
から二十日間ほど過ぎると、顔を合わせ  
る度に「寂しいね」「もう終わりだね」と  
いった会話がなされるぐらい、ムスリム  
にとって楽しい一ヶ月間なのです。

### 【ジハードは聖戦ではない】

五つ目は、少し難しい「ハッジ」です。  
サウジアラビアのメッカに一生に一回行  
き、預言者ムハンマドの巡礼の行程に従  
って同じことを行うことです。今は飛行  
機でパツと行って帰って来られるので、行  
き帰りはそんなに大変ではありませんが、  
四百万人ものムスリムが集まる聖地に行  
くには、体力や時間、経済的に余裕がな  
ければできません。ムスリム全員がで  
るわけでは  
ないのです  
が、それで  
いいのです  
。「行くぞ」と  
いう気持ち  
を持つこと  
が大事な  
のです。思  
うことの方  
が、実際に  
行動すること  
よりも評価さ



れる宗教がイスラームです。だから「行  
くぞ。行くぞ」、「できないかもしれない  
けどきつと行く」という日々の思い、こ  
れを「ジハード」といいます。

「ジハード」と聞くと「聖戦」という二  
文字が浮かぶ方がいらつしゃると思いま  
す。何十年前前に誰かが「聖戦」と訳し  
てしまい、とても危険なものと思われて  
いますが、実は「日々の努力」という意  
味です。毎日、自分の宗教を守るために  
努力を重ねることなのです。

「できないかもしれない。でも、できる  
ように努力しよう」という気持ちが大車  
輪で行きます。教えは教えとしてあり  
ますが、できないならいいですよ、とい  
うことです。そんなに苦しい思いをする  
ことがないというのが、実はイスラーム  
です。

皆さんが思っているものとは全然違  
うと思います。「どんな厳しい教えのお話  
か」と思われていたでしょうが、実はこ  
の程度で、本当に楽です。そうでなけれ  
ば、一四〇〇年もの間続きません。

『クルアーン』に「宗教に強制があつて  
はならない」と書いてあり、布教を積極  
的に行うことができないう私たちは、皆さ  
んの誤解を解くチャンスもあまりありま  
せん。こちらからの勧誘もできないので、  
「テレビでやっていることは違います」と  
言う機会がないのです。こうして皆さん  
に聞いてもらえるだけでも貴重な場です  
ので、どうか誤解を解いてほしいと思  
います。

## 2015年度 聖典研修

## 『仏説阿彌陀經』-その教義と真宗の儀式-

『仏説阿彌陀經』(姚秦の三蔵法師鳩摩羅什訳)は、月忌参りや法事などでも度々読誦され、大変親しまれているお経です。しかし、あらためて「私にとってどんな意味があるのか」と問われると言葉に詰まります。前年度に引き続き、教学的視点と儀式の側面から、『仏説阿彌陀經』が現代社会を生きる私たちに何を問いかけているのか考察していきます。

- 期 日：2015年  
第1回 7月30日(木)①  
第2回 9月18日(金)②  
第3回 10月29日(木)①  
第4回 11月13日(金)②
- 2016年  
第5回 1月21日(木)①  
第6回 2月19日(金)②  
第7回 3月17日(木)①  
第8回 6月16日(木)①
- 講 師：①廣瀬 惺 先生 ②竹橋 太 先生  
●日 程：午後6時～ 講義(90分)、休憩(20分)  
午後7時50分～ 全体座談、質疑応答  
午後8時30分 終了
- 会 場：名古屋教務所1階 議事堂  
●持ち物：『真宗聖典』  
●聴講料：各回500円  
※一般聴講可 ※全回券3500円  
※教師陞補のための「聴講証」発行対象研修
- 主 催：名古屋教区教化センター

## INFORMATION

教化センター日報  
■2015年3月～2015年5月

- 3月4日 研究業務「自死遺族わかちあいの会」後援  
5日 研究生・学習会「2015年度 真宗門徒講座 事前学習」  
12日 研究業務「平和展」学習会  
13日 研究生・実習「真宗門徒講座(宗祖親鸞聖人 生涯と教え①)」  
17日 研究業務「平和展」準備  
18～24日 研究業務「第26回平和展」開催  
20日 研究業務「平和展」学習会・特別企画「宗教と平和 -真宗とイスラームの対話-」開催  
21日 名古屋別院主催「戦争ってなに？」交流会 平和展スタッフ参加  
24～25日 研究生・教化研修「解放運動推進要員研修」参加

- 28日 名古屋教区・名古屋別院 宗祖親鸞聖人750回御遠忌 お待ち受け大会  
4月7日 研究生・教化研修「解放運動推進要員研修」参加  
10日 研究生・学習会「2015年度 真宗門徒講座 打合せ」  
14～15日 教務所・教化センター職員研修  
16日 教化研修「聖典研修⑥」(廣瀬惺氏)  
21日 研究業務「第26回平和展」反省会  
24日 研究生・学習会「第9期生修了論文 中間発表」  
30日 研究生・実習「真宗門徒講座(書いて味わう「正信偈」①)」  
5月14日 研究業務「平和展」学習会  
15日 教化研修「聖典研修⑦」(竹橋太氏)  
18日 研究生・教化研修「解放運動推進要員研修」参加  
19日 研究生・学習会「真宗門徒講座 学習会」  
26日 研究生・実習「真宗門徒講座(書いて味わう「正信偈」②)」  
29日 研究業務「自死遺族わかちあいの会」後援

## 御遠忌法要特別講座 人生講座「戦争・平和」

- 〈と き〉2015年9月1日～3日 午後6時～8時  
1日 講師 高本 康子氏(北海道大学スラブ・ユーラシア共同研究員)  
講題 「東本願寺とラマ教 -寺本婉雅の生涯-」  
2日 講師 一戸 彰晃氏(青森県曹洞宗雲祥寺住職)  
講題 「日韓仏教交流について」  
3日 講師 知花 昌一氏(沖縄別院衆徒・読谷村平和実行委員会)  
講題 「構造的差別がまかり通っているのでしょうか」

〈ところ〉名古屋教務所1階議事堂 〈参加費〉300円(全回)  
〈主催/問合せ〉名古屋別院「教化事業部」052-331-9578

## 2015あいち・平和のための戦争展

「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないやうに」(日本国憲法前文)

平和展資料を展示し、平和展スタッフが参加します。

- 〈と き〉8月20日～23日 午前10時～午後6時(入場受付は終了30分前まで、最終日は午後3時終了)  
〈ところ〉名古屋市公会堂4階ホール 地下鉄鶴舞線「鶴舞駅」徒歩3分、JR中央線「鶴舞駅」徒歩2分  
〈入場料〉一般500円(高校生以下、障がい者(介助者含む)無料)  
〈お問合せ〉2015あいち・平和のための戦争展実行委員会 電話052-931-0070 FAX052-933-3249

## 研究生募集

## 第12期 教化センター研究生を募集します

- 〈条件〉名古屋教区内の寺院・教会に所属し、教師資格を有するもの。  
〈問合せ〉名古屋教区教化センター(担当 蓮容) 電話052-323-3686

## 新プロジェクター貸出開始

新しい  
プロジェクターが  
入りました。  
ぜひ教化活動に  
ご活用ください。



## 《編集子雑感》

「名前も知らない誰かと心が通じるということがなければ、一番近くにいる人と心が通じるということはない」。さらに、「何を考えているか分からない人がいる限り、誰とも心が通じるということはない」とも。そして、「通じていると思っているのは、自分の都合のいいところだけ」と聞いた。

普段は「誰とも心が通じていない」ということに反論するかのよう、職場でも家でも友人とも過ごしている。しかし、だれに対しても「どうしてそんなことをするのか分からない」と思うし、「誰も自分のことを分かってくれない」と落ち込み、全く反論できなくなってしまう。

それでもどこかで心が通じていると思い込んでいるのか、それともどこかで心が通じないことを知っているのか、反論したいと思えない。(り)

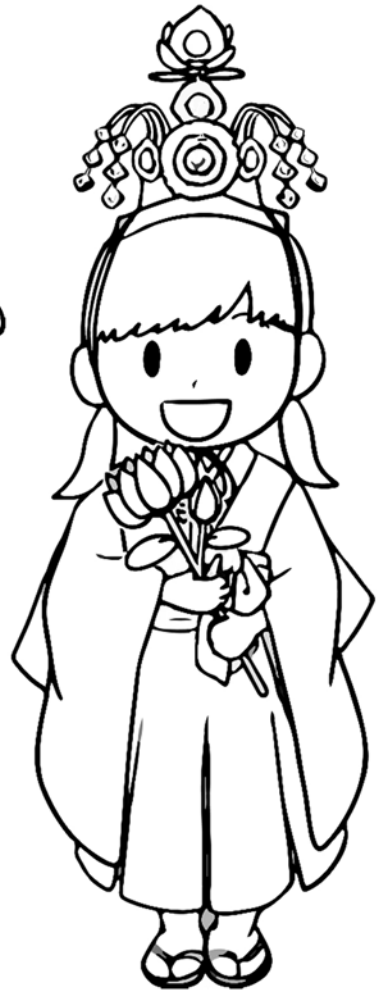
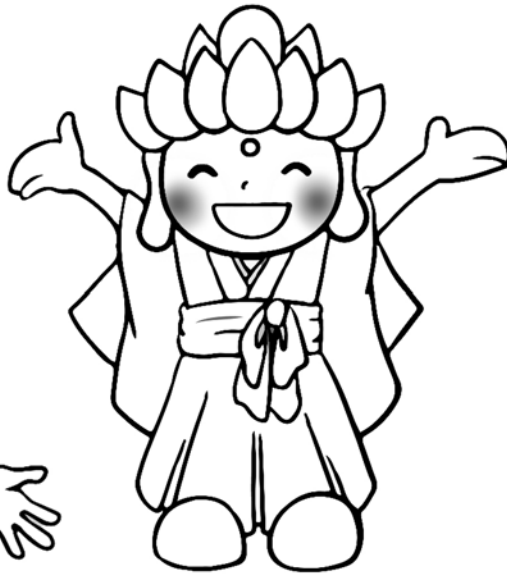
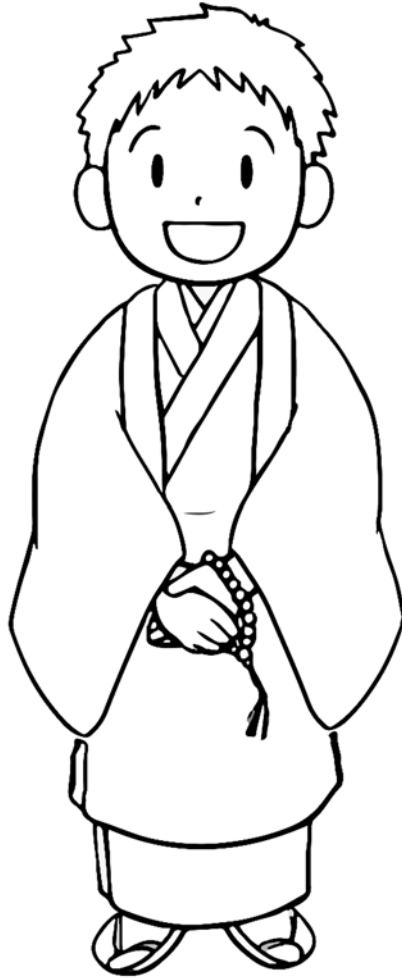
## ■教化センター

- 〈開 館〉月～金曜日 10:00～21:00  
土曜日 10:00～13:00  
(日曜日・祝日休館 ※臨時休館あり)  
夏季休暇 8月11日(火)～17日(月)  
〈貸し出し〉書籍・2週間、視聴覚・1週間  
～お気軽にご来館ください～



# イラストカット集

寺報やチラシなどにお使いください。



- ・データを希望される場合はお問い合わせください。
- ・差支えなければ、イラストを使用された場合、教化センターまでお知らせいただくとともに、イラストを使用した印刷物などお寄せください。

※用途にあわせて、切り貼りなどしてご使用いただけます。  
※あくまでもイメージです。ご了承の上お使いください。